第１７９回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成３１年３月６日提出）

１．題　目：教育機器を効果的に活用した教材開発とアクティブ・ラーニングの実践に向けて

２．日　時：平成 31 年３月１日（金）13：00～15：15

３．場　所：教養教育棟 C-16

４．主　催：言語教育研究センター

５．対　象：言語教育研究センター所属教員

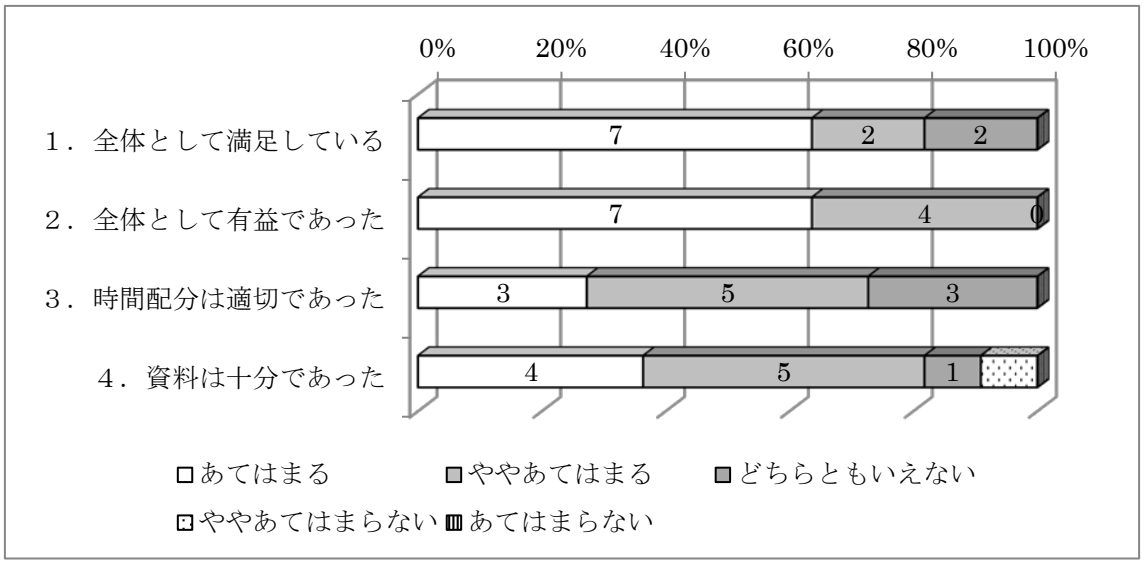
６．長崎大学ＦＤに関する申合せ第２第１項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　○　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　○　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
　教育機器を効果的に活用した教材開発を推進するため、外部講師を招聘して言語教育研究センター所属の教員を対象とした FD を実施する。iPad でも利用できる iBook Author を用いて、可搬性の高いデジタル教材の作成方法について実践を交えながら学ぶ。デジタル教材のプラットフォームを共通化することで、各語学の教材開発と共有化を進める基盤構築のための機会としたい。また、この種の教材開発とアクティブ・ラーニングのさらなる実践方法について考える。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）
13：00～13：15　西原俊明言語教育研究センター長挨拶
13：15～14：55　Well 株式会社　二見氏・中村氏による説明と教材作成の実践（質疑応答含）
14：55～15：15　電子黒板の導入と今後の展開についての説明

９．参加者：14 名
※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等
（１） 参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）
（回答者：11 名）



今回のＦＤの運営に関して、何か感想やご意見がありましたらご記入ください。
（アンケートからそのまま抜粋）

・ 最初に全体像を示してから、順次 1 から説明していただくとわかりやすいと思います。
・ このように実践形式は役に立つと思います。
・ いつか時間があれば、もう一回学びたい。
・ 少し説明が速かったので、もう少し遅めの方が分かりやすかったと思います。
・ Mac に慣れていないので、進行が少しはやすぎた。資料はコピーでもらった方が、自分のペースで見れていいいかもしれないと思った。しかし、全体的に色々なことが簡単にできることが知れてよかった。
・ 配布資料があれば、もっとわかりやすかったです。
・ 便利なソフトウェアだと思うが、Mac と Windows 両方で使用できる似たソフトウェアがあればいいと思った。

（２） 総　括

今回の FD は、外部講師を招いて言語教育研究センター教員を対象にデジタル教材開発とアクティブ・ラーニングのさらなる強化を目標に行なった。無料

のアプリケーションである iBook Author について、単に説明を受けるだけでなく、説明を聞きながら実際に教材作成を行い、iBook Author の利用方法について理解を深めた。また、アプリケーションによる教材の共有も簡単にできること、さらには可搬性の高い教材を作成できることが理解できたと思われる。各参加者からのコメントからも明らかなように、iBook Author を用いた教材作成が複雑ではないこと、比較的平易にできることが理解できたと思われる。今後は、CALL 支援室に Apple コンピューター1 台を設置し、デジタル教材化と共有化を更に進めていきたい。また、その際に問題になると思われるコピーライトについて、意識を高める機会を今後設定したい。今回の FD に際して、今後の課題も明らかになった。iOS 対応の端末を持っていない学生のための教材作成、及び教材利用をどのように確保するかは今後の課題としたい。LACS を用いての教材化は、煩雑な部分もあるので、Windows を用いての代替案について検討を行いたい。

（文責：西原俊明）

１１．実施代表者の連絡先

部　局：言語教育研究センター
職　名：言語教育研究センター長　　氏　名：西原俊明
e-mail：t-nishi@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：2095

１２．申請者の連絡先

部　局：言語教育研究センター
職　名：教授　　氏　名：西原俊明
e-mail：t-nishi@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：2095